

## 創世記38 創世記25章19節～34節

### 「エサウとヤコブの誕生」

#### イントロ：

1. 創世記は11のトルドットに区分される。
2. 第6のトルドットは、創11：27～25：11で、「テラの歴史」。
3. 第7のトルドットは、創25：12～18で、「イシュマエルの歴史」
4. 第8のトルドットは、創25：19～35：29で、「イサクの歴史」

#### 2. きょうの箇所とメッセージのアウトライン

- (1) 誕生前の預言
- (2) ふたごの誕生
- (3) ふたごの成長
- (4) 長子の権利の売り渡し

#### 3. きょうのメッセージは、私たちに何を教えているか。

- (1) 神の選びの確かさ
- (2) 選びに対する人の応答の必要性

このメッセージは、神の選びと人の応答の必要性のバランスを教えるものである。

#### I. 誕生前の預言 (25：19～23)

##### 1. イサクのトルドットの始まり

「これはアブラハムの子イサクの歴史である。アブラハムはイサクを生んだ」

- (1) 他のトルドット同様、「これはイサクの歴史である」というタイトルで始まる。
- (2) 「イサクの歴史」とは、イサクの息子たちに何が起こったかという記録である。

##### 2. イサクは40歳で結婚。

###### (1) 妻はリベカ

- ①パダン・アラムのアラム人(シリア人) ベトエルの娘
- ②アラム人ラバンの妹
- ③リベカは不妊の女であった。20年間子が与えられない。

###### (2) イサクはリベカのために主に祈願した。

- ①イサクの生活については記述がないが、主に祈ったことだけは書かれている。

- ②父アブラハムのように「めかけ」によって子を得ることはしなかった。
- ③イサクの祈りは聞かれた。

### 3. リベカは妊娠した。

「子どもたちが彼女の腹の中でぶつかり合うようになったとき、彼女は、『こんなことでは、いったいどうなるのでしょうか。私は』と言った。そして【主】のみこころを求めに行った」

- (1) 子どもたちが彼女の体内で押し合った。
- (2) 彼女は不安になった。命の危険さえも感じた。
- (3) 彼女もまた、主に祈った。

### 4. 主からの答えがあった。

「すると【主】は彼女に仰せられた。『二つの国があなたの胎内にあり、二つの国民があなたから分かれ出る。一つの国民は他の国民より強く、兄が弟に仕える』」

- (1) ヘブルの詩の形式。韻を踏むのではなく、並列法での記述。
- (2) 1行目 「二つの国があなたの胎内にあり」
  - ①「国」は、「ゴイム」である。
  - ②イスラエルについても、異邦人についても、「ゴイム」が用いられる。
- (3) 2行目 「二つの国民があなたから分かれ出る」
  - ①イスラエルとエドムの誕生。
  - ②エドムは、多くある異邦人国家のひとつ。
- (4) 3行目 「一つの国民は他の国民より強く」
  - ①イスラエルはエドムよりも強い。
- (5) 4行目 「兄が弟に仕える」
  - ①エドムはイスラエルの奴隷となる。

## II. ふたごの誕生 (25:24~26)

### 1. 「出産の 때가満ちると、見よ、ふたごが胎内にいた」(24節)

### 2. 兄の誕生の様子

「最初に出て来た子は、赤くて、全身毛衣のようであった。それでその子をエサウと名づけた」

- (1) 「赤くて」は、「アドモニ」。ここから、「エドム」という言葉が出てきた。
- (2) 「アドモニ」は、ここ以外ではダビデに関してのみ出てくる言葉。
  - ① Iサム16:12

「エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。その子は血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった」

②17:42

「ペリシテ人はあたりを見おろして、ダビデに目を留めたとき、彼をさげすんだ。ダビデが若くて、紅顔の美少年だったからである」

(3) エサウとは、「毛深い」の意味。

①個人名のエソウは、毛深いところから付けられた名。

②民族名のエドムは、毛の色が赤かったところから付けられた名。

### 3. 弟の誕生の様子

「そのあとで弟が出て来たが、その手はエサウのかかとをつかんでいた。それでその子をヤコブと名づけた」

(1) かかとは「アケブ」である(新共同訳)。

(2) ヤコブと「かかと(アケブ)」は同じ語根から出た言葉である。

①ヤコブの第一義的な意味は、「かかとをつかむ者」である。

②第二義的な意味は、「追い出す者」である。

(3) この言葉には、否定的なニュアンスは含まれていない。

①それが肯定的な意味か、否定的な意味かは、文脈によって決まる。

②名前が与えられた時は肯定的な意味、後に否定的な意味になる。

創 27:36

「エサウは言った。『彼の名がヤコブというのも、このためか。二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった』」

ホセ 12:3

「彼は母の胎にいたとき、兄弟を押しつけた。彼はその力で神と争った」

エレ 9:4

「おのおの互いに警戒せよ。どの兄弟も信用するな。どの兄弟も人を押しつけ、どの友も中傷して歩き回るからだ」

(4) ヤコブについての評価を再吟味する必要がある。

## Ⅲ. ふたごの成長 (25:27~28)

### 1. ふたごの成長

「この子どもたちが成長したとき、エサウは巧みな猟師、野の人となり、ヤコブは穏やかな人となり、天幕に住んでいた」

## 2. エサウ

- (1) 「巧みな獵師」という言葉は、創世記の文脈では否定的な意味を持っている。
- (2) ニムロデの場合もそうであった。創10：8～12。

## 3. ヤコブ

- (1) ヤコブの性質について悪く言うのが、キリスト教の伝統のようになっている。
- (2) しかし、聖書の評価はそれとは異なる。
- (3) 誤った解釈：ヤコブは母親っ子、エサウは英雄であり巧みな獵師。

## 4. エサウに関する正しい解釈

- (1) エサウは「野の人」となり、家族の絆の外で生きることを選んだ。
- (2) つまり、エサウは、家族への忠誠も家族との契約も捨てた男であった。
- (3) 神のエサウへの評価は否定的である。

マラ1：2～3

『わたしはあなたがたを愛している』と【主】は仰せられる。あなたがたは言う。『どのように、あなたが私たちを愛されたのですか』と。『エサウはヤコブの兄ではなかったか。——【主】の御告げ——わたしはヤコブを愛した。わたしはエサウを憎み、彼の山を荒れ果てた地とし、彼の継いだ地を荒野のジャッカルのものとした』

ヘブ12：16～17

「エサウのような俗悪な者」

## 5. ヤコブに関する正しい解釈

- (1) ヤコブは「穏やかな人」になったという訳を再吟味する必要がある。
  - ①ヘブル語では「タム」である。
  - ②ヨブ1：8、22：3 ヨブに関して 「正しい人」
  - ③創6：9 ノアに関して 「正しい人」
  - ④詩18：25 神と人に関して用いられている。  
「あなたは、恵み深い者には、恵み深く、全き者には、全くあられ」
- (2) ヤコブに関する誤解が先にあり、それに合うような形で訳語が選ばれている。
  - ① 「タム」は、「完全」という意味である。
  - ②罪がないという意味での「完全」ではない。
  - ③神に対する姿勢が正しいという意味での、「義人」である。
  - ④ヨブとノアの例を考えればよい。
- (3) 「天幕に住んでいた」の意味。

- ①母親っ子という意味ではない。
- ②彼は、家族という絆の中で、責任を果たして生きることを選んだ。
- ③羊飼という家業を継いだ。アブラハム、イサクの道である。
- ④羊飼いは、女性的な仕事ではない。
- ⑤後に展開されるエピソードによって、羊飼いの労働の厳しさが明らかになる。
- ⑥ダビデが獅子や熊から羊の群れを守ったのと同じことである。

#### 6. 両親の偏愛

「イサクはエサウを愛していた。それは彼が猟の獲物を好んでいたからである。リベカはヤコブを愛していた」

- (1) イサクはエサウを愛した。
  - ①理由は、猟の獲物を好んでいたからである。「獲物が彼の口の中にあった」
  - ②これは、ジビエ(狩猟による鳥獣肉)である。英語ではゲームミート。
  - ③イサクは、神の選びを無視した。
- (2) リベカはヤコブを愛していた。
  - ①神もそうであった。マラ1:2~3。

### IV. 長子の権利の売り渡し (25:29~34)

#### 1. エサウの粗野な性質

「さて、ヤコブが煮物を煮ているとき、エサウが飢え疲れて野から帰って来た。エサウはヤコブに言った。『どうか、その赤いのを、そこの赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから』。それゆえ、彼の名はエドムと呼ばれた」

- (1) 彼は、疲れていただけである。それ以上の状態ではない。
- (2) 「私に食べさせてくれ」
  - ①「グイグイ飲む」、「あおる」
  - ②動物的な食欲が暗示されている。
- (3) 「煮物」という言葉は使わずに、「赤いの」「赤いの」と言っている。
- (4) ヘブ12:6では、「俗悪な者」という評価が下されている。
- (5) 彼は「エドム(赤)」と呼ばれるようになり、子孫たちは先祖の性質を引き継ぐ。

#### 2. ヤコブの提案

「するとヤコブは、『今すぐ、あなたの長子の権利を私に売ちなさい』と言った」

- (1) ヌジ文書では、長子の権利は売買が可能である。
- (2) 長子の権利の内容

- ①物質的祝福 申21:17 2倍の分け前
  - ②霊的祝福 I歴5:1~2 祭祀を仕切る権利
  - ③メシアの系図に連なるという祝福。アブラハム契約に基づく長子の権利
  - ④土地の所有
- (3) アブラハム契約では、霊的祝福が前面に出ている。  
(4) それゆえ、エサウは長子の権利に興味を示さなかった。

### 3. エサウの回答

「エサウは、『見てくれ。死にそうなのだ。長子の権利など、今の私に何になろう』と言った」

- (1) エサウは、自分の状態を誇張している。
- (2) 他の天幕に行けば、いくらでも食物はあったであろう。
- (3) 新改訳は、「長子の権利など、今の私に何になろう」と訳している。

#### 【口語訳】

エサウは言った、「わたしは死にそうだ。長子の特権などわたしに何になろう」。

#### 【新共同訳】

「ああ、もう死にそうだ。長子の権利などどうでもよい」とエサウが答えると、

- (4) 彼は、「長子の権利に何の益があるか」と言っているのである。
- ①長子の権利には、大いなる祝福が込められている。
- ②彼には、霊的祝福への興味がない。

### 4. 売買成立

(1) 「誓い」によって、この取引は法的に有効なものとなった。  
「それでヤコブは、『まず、私に誓いなさい』と言ったので、エサウはヤコブに誓った。  
こうして彼の長子の権利をヤコブに売った」

(2) ヤコブは長子の権利のための代価を払い、エサウはそれを受け取った。  
「ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えたので、エサウは食べたり、飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子の権利を軽蔑したのである」

- ①食べた
  - ②飲んだ
  - ③立った
  - ④去った
- (3) ヤコブが不正を働いたという表現はない。  
(4) 聖書は、エサウの非を責めている。
- ①「エサウは長子の権利を軽蔑した」

- ②「軽蔑した」とは、価値のないものとして扱ったということ。
- ③エサウには、神のことに関する感受性がなかった。
- ④神の計画の一部になりたいという思いがない。
- ⑤エサウは、長子の権利を売っただけでなく、それをさげすんだ。

#### 結論：神の選びと人の責務のバランス

1. ロマ9：10～12は、神の選びの確かさについて教えている。

「このことだけでなく、私たちの父イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります。その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行わないうちに、神の選びの計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に仕える』と彼女に告げられたのです。『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです」

- (1) 同意するのが難しい箇所である。
- (2) アブラハムから出る者がすべて子ではない。信仰が必要である。
- (3) 異邦人である私たちこそ、神の選びの祝福を受けている。
- (4) ヨハネ15：16

「あなたがたがわたしを選んだわけではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです」

2. ヘブ12：16～17は、人の責務について教えている。

「また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。あなたがたが知っているとおおり、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした」

- (1) 業による義を求めても、それは不可能である。
- (2) 信仰による義を求めること。
- (3) そうすれば、道は開ける。